

若者の「性」をめぐって

—インドネシアにおけるフィールド調査から—

二重作 和 代*

「ねえ、日本では性的なことは自由にできるの？本当なの？」

それはブリトゥン島でのフィールド調査を終え、冷たい柑橘ジュースをカフェで飲みながら、カウンターパート先のDさんなどの年配女性たちと休憩している時だった。突然突拍子もないことを尋ねられ、筆者は思わず面食らってしまった。興味深そうに筆者を見つめる彼女たちに囲まれ、渋々、彼女たちの様子をうかがいながら「日本では…」と返答することにした。たどたどしく話す筆者に、「そんな風に話すということは、あなた、経験があるからなのね」と彼女たちは笑った。

このような体験を思い起こすと、性に関する話が自由にできるように思えるのだが、おそらくこれは相手が私のような外国人であったからで、現地の未婚の若者、とりわけ女性が声高に性的な話をするとはやはり憚られるものであるように思う。少なくとも、筆者の周辺では同性同士であればまだしも、異性間で性に関する話をするとはあまりなかった。さらに言えば、上述のDさんからの質問は、これまで他の女性研究者も経験してきたような「研究ばかりして、子どもを産まないのか？」という、現地の人々が未婚研究者

に対して抱く疑問の延長線上にあったのだとも思う。また筆者は同時に、一見インドネシアの中高年層が性的なことから一定の距離を保っているようにみえる現状と、性的な情報を容易に入手・共有し、時に行動する若年層との間にギャップがあるように感じた。

2本の青い線

インドネシアでは特に2000年代初頭以降、若者、思春期世代の性を取り巻く環境が経済発展やインターネットの普及などにより変化している。2019年6月には「2本の青い線 (Dua Garis Biru)」という、高校生の望まない妊娠を題材にした映画が放映され、インドネシアで大きな波紋を生んだ。インドネシアでは日本以上に「性」がタブー視されており、性交渉にまつわる自己の身体の仕組みや、避妊方法などの正しい情報や知識を得ることは難しい。一方で、インターネットによって多くの若者が簡単にポルノ動画などにアクセスできるようになり、誤った知識のまま性行為に及ぶ若者も少なくない。

映画のタイトルである「2本の青い線」は、妊娠検査薬の陽性を示す線を指している。映画公開時にはSNSでこの映画に関する投稿

* 京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科



写真1 映画「2本の青い線 (Dua Garis Biru)」のポスター

が飛び交っていた。作中では、主人公の女子高校生が恋人と避妊せずに性行為に及び、妊娠してしまう。2人は両親に内緒で子を出産しようと計画するが、結局は隠し通すことはできず、彼女は高校を退学する。その後彼女は出産することになるも、「子どもが子どもを育てることなどできるわけがない」と両親に説得され、最終的に赤ん坊は養子に出される。本作品はフィクションであるが、妊娠の末、10代で結婚し出産したり、あるいは秘密裏に堕胎をしたりする、インドネシアの若者を取り巻く「性」の現状を映し出している。

若者の性を取り巻く環境

インドネシアの若者、特に思春期世代の性教育、性環境の整備に着目した諸研究では、しばしば若者に適切な性教育を施すこと、そして避妊などの機会を既婚者と同様に与える必要性が指摘されている [cf. Susanto *et al.* 2016]。それらの研究では、婦人科などで未婚者が受ける差別的な対応についても言及がなされていた。特に未婚の若者への避妊に関する情報やサービスの提供に関する政策は現時点でまだなく、彼らが必要なケアや情報を十分に得ることができない環境が、現在のインドネシアにはあるという。

たとえば、インドネシアにおける健康に関する法律 (UU No.36/2009, UU No.52/2009) ではリプロダクティブ・ヘルスにまつわる条項があるが、そこではケアや情報を得るにあたって「法的に婚姻関係にあること」や「宗教規範に抵触しないこと」が前提とされており、¹⁾ 未婚者を対象にした条項は見受けられない。しかしながら実際には、未婚であつても性行為に及ぶ場合もあり、インドネシアのジャワ島で実施された調査²⁾ によれば、未婚の若者 (15～24歳) のうち15～18歳は1.5%、19～21歳は4.3%、そして22～24歳は11.7%が性行為を経験している [Budiharsana 2017]。

また、インドネシアでは教育機関で性教育がカリキュラムに含まれていないことが多いため、性教育の不十分さについてもしばしば

1) たとえば UU No.36/2009 第72条、第74条および UU No.52/2009 第21条、第23条など。

2) ジャワ島の6州 (バンテン、ジャカルタ、西ジャワ、中部ジャワ、ジョグジャカルタ、東ジャワ) の若者 (15～24歳) 5,150人を対象に調査を実施 [Budiharsana 2017]。



写真2 薬局で販売されていたピル

批判がなされてきた。特に多様な避妊手段に関する知識は、若者のリプロダクティブ・ヘルス/ライツのために必要だと指摘されている。

避妊具へのアクセス

インドネシアで用いられる避妊方法は、日本と大きく変わらない。コンドーム、低・中容量ピルの使用が主流である。³⁾ 特にピルは「家族計画ピル (Pil KB)」(写真2) と呼ばれ、既婚女性の出生数をコントロールすることが目的で使用されることが多い。入手できる手段が限られているため、未婚者にとってはコンドームが最も容易に入手できる避妊具である。ジャカルタなどの都市部では、スーパーやコンビニなどで簡単にコンドームが入手できる。ピルも、街中の薬局の処方箋で購入することが可能だ。しかし、筆者の調査地のような地方社会ではそれらを入手すること自体が困難である。

以前、ブリトゥン島に住む筆者と同世代であるムラユ人のAさんに避妊具の入手方法

を尋ねると、「コンドームはタンジュンパンダン（ブリトゥン島の市街地）に行かないと手に入らない。それか、華人の友人が仲介して売ってくれることがあるから、そこで買うこともできるよ。ピルはわからない」と話してくれた。実際、市街地から離れた地域のスーパーにコンドームが陳列されているのを筆者は見たことがなかったが、タンジュンパンダンではスーパーの一面にひっそりと置かれていた。ピルはさらに見つけることが困難であった。市街地に5軒ある薬局のうち、1軒にしかピルの取り扱いがない、という具合である。さらにピルは店頭で陳列されていないため、どの薬局でも、「家族計画ピルはありますか」と尋ねなくてはしなかった。

「性」と若者の関わり

Aさんは筆者と会話中、自分で避妊具を購入することに抵抗があり、人に見られたくない、とも話していた。おそらくインドネシアの若者にとって、避妊具を手にすることは性的なことと自分との接点を示す「恥ずかしく、(社会あるいは宗教的に) 望ましくない行為」なのだろう。このような「性」をタブー視するような意識は、ジャカルタの若者と接する中でも見受けられた。

たとえば筆者はジャカルタに滞在中、友人に誘われキリスト教徒の学生集会に参加したことがある。参加していたのは大学生で、そのうちひとりの女子学生が性交渉の経験を泣

3) ただし、既婚者の家族計画を目的とした避妊では避妊注射の利用が全体の63.71%を占めており、ピルの利用は17.24%となっている [Pusdatin KemKes 2019]。

きながら懺悔し、「今はもうしないけれど、あの時私は罪を犯した」と話していた。性に関する情報がインターネットで瞬時に手に入り、避妊具へのアクセスも比較的容易で、性的にアクティブな若者が他地域と比べて多いと思われるジャカルタでも、性的なことと一定の距離を保つことが「良い」と考える若者も多い。しかし一方で、「望まない妊娠をしてしまい、家族に知られたくないがために相談できず、秘密裏に堕胎処置を行なった」という話も耳にする。

インターネットが若者の安易な性行為への動機付けとなるという指摘がある一方で、インターネット上で性教育的な情報を共有しようという肯定的な取り組みもある。たとえば、インドネシアの動画配信アプリ（Vidio）では、性教育的コンテンツが配信されている。その他にも、たとえば女性下着を取り扱うベンチャー企業では、商品だけでなく女性の身体構造にまつわる情報をインスタグラムでも発信しており、多くの若者がフォローしている。しかしながら、このように発信された情報は全てのインドネシア人の目に止まるわけではない。さらに、宗教的にこうした取り組みを肯定的には受け取れないという人もいるであろう。インドネシアの若者たちは、こうした揺らぎに晒されている。

おわりに

さて、ここまでインドネシア（特にジャカルタ、およびブリトゥン島）における若者の「性」を取り巻く現状についてまとめた。インドネシアの若者は、インターネットなどを

通して容易に性に関する情報にアクセス出来るようになった。彼らが収集する情報は正しいものばかりでない一方で、公的に正しい知識を得る機会ほとんどない。加えて、避妊具に関しても都市部と地方社会ではそのアクセス性に差がみられる。「性」をタブー視する社会的・宗教的背景が、若者が正しい知識を得、行動するうえで妨げとなっている場合もある。

ところで、日本の性をめぐる環境も、実際は多くの課題を抱えている。性教育に関しても日本はオランダをはじめとするヨーロッパと比較すれば不十分だという見方もあり、単に性行為に関する知識を学ぶだけではなく、自己の身体に関する構造や形態、さらに多様なジェンダーのあり様について学ぶ機会を取り入れるべきだという指摘もある〔橋本 *et al.* 2011〕。インドネシアの若者を取り巻く現状も、決して他人事ではないのだ。

引用文献

日本語文献

橋本紀子・篠原久枝・田代美江子・鈴木幸子・広瀬裕子・池谷壽夫・良香織・小宮明彦・渡部真奈美・茂木輝順・森岡真梨. 2011. 「日本の中学校における性教育の現状と課題」『教育とジェンダー』9: 3-20.

英語文献

Budiharsana, Meiwita. 2017. Contraceptive Services Available to Unmarried Sexually Active Adolescents, *Makara Journal of Health Research* 21(2): 68-74.
Susanto, Tantut, I. Rahmawati, E. Wuri Wuryaningsih, R. Saito, S. Syahrul, R. Kimura, A. Tsuda, N. Tabuchi and J. Sugama. 2016.

Prevalence of Factors Related to Active Reproductive Health Behavior: A Cross-sectional Study Indonesian Adolescent, *Epidemiology and Health* 38: 1–10.

インドネシア語文献

Pusdatin KemKes. 2019. BAB V. Kesehatan Keluarga. In Pusat Data dan Informasi Kementrian Kesehatan Republik Indonesia, *Profil Kesehatan Indonesia 2018*. pp. 111–170.

サンタクルーズ諸島における羽毛貨トアウの現在

山口 優 輔*

はじめに

本報告はソロモン諸島国テモツ州における結婚様式と羽毛貨を紹介する。

テモツ州は国の最東部に位置する州であり、州都ラタがあるネンド島を中心に構成される州である。ネンド島から北東にリーフ環礁とダフ諸島が、南東にウトゥプア島とヴァニコロ島が、東にティコピア島とアヌタ島が位置しており、この一帯を合わせてサンタ

クルーズ諸島と呼ぶ（図1）。

筆者は2019年9月から2020年3月に、ダフ諸島（ラタから約180キロメートル）およびリーフ環礁（同約80キロメートル）においてフィールドワークを実施した（図2）。リーフ環礁の島の多くはサンゴ礁の「低い島」で構成され、ほぼ全ての島に人が居住

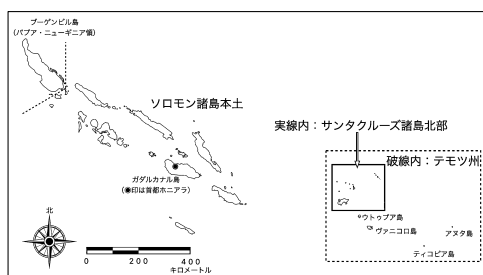


図1 ソロモン諸島国内におけるサンタクルーズ諸島の位置

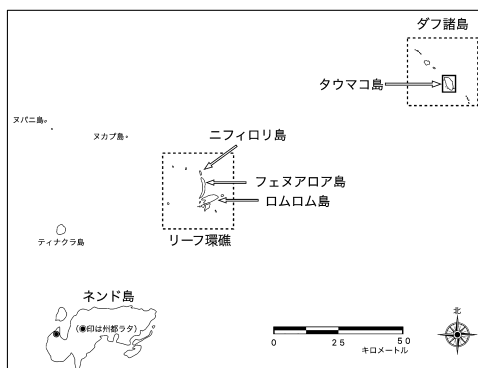


図2 サンタクルーズ諸島北部におけるネンド島・リーフ環礁・ダフ諸島の位置

* 京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科